日吉台地下壕保存の会会報

第１５８号

日吉台地下壕保存の会

祖父から孫へ　―個人的な継承―　会長　阿久澤　武史

今年は年次総会に先立ち、5年ぶりに講演会を開催しました。講師に一橋大学名誉教授の吉田裕さんをお迎えし、「戦争体験の検証―現状と課題を考える」と題するお話をいただきました。アジア・太平洋戦争を体験された方のほとんどが鬼籍に入られている今、戦場や空襲の体験、銃後の暮らし、外地からの引き揚げのお話を直接お聞きする機会は日増しに少なくなっています。吉田さんのご講演の中で印象に残ったのは、そうした体験を語り継ぐことだけでなく、継承されてこなかった事実や記憶に目を向けることの大切さです。語られなかった出来事や、そこに込められた深い思いを解きほぐしていく時間は限られています。

私の母は昭和13年生まれの86歳、中国からの引き揚げ経験者です。父親（私の祖父）が満州の日本人学校の教員だったため、幼少期を開拓村で過ごしました。恵まれた生活だったそうですが、ソ連軍の侵攻とともに、1年以上に及ぶ苦難の逃避行が始まりました。

船が博多港に入り、やっとの思いで本土の土を踏んだ直後に、妹が亡くなりました。3日後には弟も亡くなりました。死因は栄養失調と疲労による急性肺炎、弟はジフテリアも併発していました。祖父は晩年に『わが人生』と題した自分史を書き、満州での教員生活と引き揚げの記録を詳細にまとめています。母にとって引き揚げの思い出は、父母が懸命に家族を守った記憶であり、5歳の弟と2歳の妹を失った悲しい記憶でもあります。これまで何度も話を聞きましたが、本当の意味で丁寧に真摯に耳を傾けることができていたのか自信がありません。

祖父は小学校の教員として、生涯を生まれ育った地域の教育に尽くし、校長や町の教育長などを歴任しました。昭和30年代に全国で広がった「勤務評定闘争」（教員に対する勤務評定をめぐる闘争）では、地区の教職員組合の支部長として当局と連日連夜の交渉を行い、運動の渦中に身をおきました。根底にあったのは「教え子を再び戦場に送らない」という強い信念だったと聞いています。公権力による教育への介入を簡単には受け入れられなかったのでしょう。最晩年に病気で倒れた時、東京から駆けつけた私に病床で言った言葉が忘れられません。

「教育の目的は人格の完成にある。」

これは昭和22年に施行された教育基本法の第一条の一節です。祖父は私が教員になったことを心から喜んでいました。祖父が残そうとした思いと言葉は、私の中でいまも重い意味を持ち続けています。

【目次】

巻頭言【1-2p】祖父から孫へ-個人的な継承- 会長　阿久澤武史
報告・総会議案【2-5p】
　第36回日吉台地下壕保存の会　講演会・総会
お知らせ【6-7p】
　第27回戦争遺跡保存全国大会ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ北九州やはた大会
感想文【8-9p】日吉台中学校生徒の出張授業感想文
聞き取り【10-11p】元日吉寄宿舎寮生　芹沢宏氏（故人）の聞き取り　運営委員　山田　譲
報告【12-13p】スティーブンＦウドベーヘイジセンター訪問　ガイド　矢尾板達也
報告【14-15】2024平和のための戦争展 in よこはま
　☆所感　ガイド　鈴木隆司
　☆参加して　ガイド　酒井昭規
お知らせ【15p】パネル展示会・講演会（横浜市港北図書館）
　パネル展示会（日吉のほんだな）
活動の記録【16p】2024.4月～7月

祖父が亡くなった後、書棚にあった中央公論社の『日本の文学』全 80 巻を形見として貰い受けました。いま、私の部屋の書棚に紺色の重厚な背表紙が並んでいます。手に取ってページをめくると、赤鉛筆の書き込みを目にすることがあります。思いがけず祖父と再会する瞬間です。祖父の人柄、書き残した自分史、形見の文学全集、そして母の語る戦中・戦後の思い出、それらは私にとって家族の戦争体験と直接つながるものになっています。

今年の１月に初孫が誕生しました。幼い彼の中に、やがて知性が芽吹き始めます。これからどのような世界を見て、いったい何を考えていくのでしょうか。私はどんな言葉で何を伝えていけばよいのでしょうか。平成 18 年に改正された教育基本法の第 1 条は次のようなものです。

（教育の目的）

第1条　教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

世界では終わりの見えない戦争が続き、政治家に対する不信がこの国に渦巻いています。私の次の次の世代が、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」になることを願わずにいられませんが、そうした社会を作る責任は、やはり私たちの世代にあるということを忘れてはならないと思っています。

報告　総会議案　第 36 回　日吉台地下壕保存の会 講演会・定期総会

日時：2024 年 6 月 15 日（土）15:00～15:30
場所：慶應義塾大学日吉キャンパス　来往舎シンポジウムスペース
主催：日吉台地下壕保存の会
※以下の議案はすべて異議なく承認されました。

☆2023 年度活動報告

◇会員数：個人 270 名　　交換・寄贈団体：86 団体
◇定期総会開催：第 35 回　2023 年 6 月 17 日（土）来往舎大会議室
◇運営委員会開催：2023／4～2024／3　11 回
◇会報発行：4 回　154 号（7/6）～157 号（4/19）
◇地下壕見学会：2023／4～2024／3　40 回　1,212 人
◇ガイド学習会／拡大ガイド学習会：2023／8～2024／3　5 回　日吉地区センター
◇第 28 回平和のための戦争展inよこはま:2023 年 6 月 15 日（木）～6 月 17 日（土）
　神奈川県民センター　日吉台地下壕　展示参加

◇港北図書館パネル展示会・ミニレクチャー・講演会：
　展示会　2023 年 7 月 1 日（土）～8 月 5 日（土）
　ミニレクチャー　7 月 8 日（土）、7 月 22 日（土）、
　講演会　8 月 5 日（日）『日吉キャンパスにある戦争遺跡』
◇日吉台地下壕パネル展示会（日吉の本だな）
　2023 年 8 月 6 日（日）～8 月 31 日（木）

◇第 26 回戦争遺跡保存全国シンポジウム横須賀おっぱま大会に参加

2023 年 9 月 16 日（土）～18 日（月）（参加者　300 名）

主催：戦争遺跡保存全国ネットワーク、第 26 回戦争遺跡保存全国シンポジウム横須賀おっぱま大会実行委員会

後援：横須賀市、横須賀市教育委員会、神奈川新聞社、タウンニュース社、一般社団法人横須賀市観光協会、貝山地下壕保存する会、追浜観光協会、おっぱまはっけん倶楽部、追浜連合会町内会

9/16：全体会

記念講演　大原一興（横浜国立大学教授）「地域遺産のまるごと継承　市民が主体のエコミュージアムによるヨコ展開の取り組み」

9/17：分科会　第一分科会「保存活動の現状と課題」

第二分科会「調査の方法と保存整備の技術」

第三分科会「平和博物館と次世代への継承」

9/18：フィールドワーク

☆旧海軍地下壕と戦争遺跡

☆三浦半島に残る本土決戦の遺跡

◇講演会　10 月 21 日㈯　福澤諭吉記念　慶應義塾史展示館　2023 年企画展「慶応義塾日吉キャンパスをめぐって」

講師　吉田鋼市氏（横浜国立大学名誉教授）

聞き手　阿久澤武史（慶應義塾高等学校校長　日吉台地下壕保存の会会長）

◇出張授業　5 月 15 日㈪　日吉台中学校体育館「平和講演会」として　2 年生 360 名

日吉台地下壕・特攻兵の話・日吉地区の古代遺跡（Power Point 使用）

◇横浜市生涯学習文化財課訪問　日吉台地下壕文化財認定について 2024.2.16 ,3.25

◇ガイド養成講座：第 16 期 2023/4～7 月　修了者 20 名

◇ガイド養成講座：第 16 期 2023/4～7 月　修了者 20 名

2023 年度 決算報告

（単位 円）

費　目	2023 年度予算	2023 年度決算	備　考
【収入の部】			
会費	400,000	379,016	178 名
見学会資料代	500,000	590,000	
図書等頒布	100,000	15,280	
寄付金等	0	41,000	
ガイド養成講座受講料	0	54,000	
繰越金	55,672	55,672	
計	1,055,672	1,134,968	
【支出の部】			
運営費	150,000	87,857	各種会合・打ち合せ等
事務費	100,000	100,999	事務用品費等
印刷費	100,000	122,075	会報・資料等
通信費	250,000	172,489	会報送料等
図書資料費	50,000	135,100	参考書籍・販売書籍
交流・交通費	100,000	34,000	全国集会・各平和展賛助金等
謝礼	50,000	0	講演・学習・調査等
冊子作成費	200,000	0	
予備費	55,672	0	
小計		652,520	
差引残高		482,448	次年度繰越金
計	1,055,672	1,134,968	

以上の通り報告します。

2024 年 6 月 10 日

日吉台地下壕保存の会

会　計　亀岡 敦子

この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査　熊谷 紀子

会計監査　山口 園子

☆2024 年度　予算　（単位　円）

費　目	2024 年度予算	備　考
【収入の部】 会費	400,000	会費 2,000 円
見学会資料代	600,000	
図書等頒布	100,000	
ガイド講座養成受講料	40,000	
繰越金	482,448	
合計	1,622,448	
【支出の部】 運営費	150,000	各種会合・打ち合わせ等
事務費	100,000	事務用品費等
印刷費	250,000	会報・資料等
通信費	250,000	会報送料等
図書資料費	50,000	参考書籍・販売書籍
交流・交通費	100,000	全国集会・各平和展賛助金等
謝礼	50,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	300,000	
予備費	372,448	
合計	1,622,448	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました。

2024 年 6 月 15 日　　日吉台地下壕保存の会　運営委員会

☆2024 年度日吉台地下壕保存の会
運営委員・会長・副会長・会計監査

会　長　　阿久澤　武史

副会長　　亀岡　敦子　　喜田　美登里　　羽田　功

運営委員　石橋　星志　　上野　美代子　　遠藤　美幸
　　岡上　そう　　岡本　雅之　　小野　由紀
　　岸本　正　　小山　信雄　　佐藤　宗達
　　佐藤　由香　　田中　剛　　福岡　誠
　　宮本　順子　　山田　譲　　山田　淑子

会計監査　熊谷　紀子　　山口　園子

☆2024 年度　活動方針

長かったコロナ禍を経て、昨年度は定例の見学会に加えて、中高生や大学生が参加する見学会も多数実施できました。近隣の学校に出向く「出張授業」の内容も充実し、そこで出た質問や感想を会報に掲載しました。世界で起きている戦争は終息に向かうどころか激化の一途をたどり、目を覆いたくなるような映像を報道で目にします。こうした状況の中で、次代を担う若い世代が戦争遺跡を通して何を感じ、何を考えるのか、会の活動をとおして私たちができることを大切にしていかなければなりません。

定期総会の日に講演会を行うのは、実に 5 年ぶりのことです。5 月には港北図書館・港北区役所地域振興課主催の行事に協力し、日吉の歴史に関する講演とフィールドワークを行いました。昨年は会として 2 冊の資料集を刊行、会員による書籍の刊行も続きました。ガイド養成講座の受講者は昨年今年と定員に達し、新しいガイド仲間の加入は心強いばかりです。定例見学会の参加定員数は、現時点ではまだ 40 名を目安にしていますが、今後は少しずつ増やしていきます。見学会の受付をより迅速かつ確実にするために、従来の電話やファックスによる方法から電子メールに切り替えています。

年 4 回の会報の発行、ガイド養成講座、ガイド学習会、講演会、出張授業の実施など、会の活動は以前に増して活発なものになっています。一方で会員数は横ばいであり、印刷費・郵送費等の値上げにより、財政面では不安をかかえています。昨年度の総会では年会費を一口 2,000 円とすることをご了承いただき、安心して活動する基盤を作ることができました。

地下壕の史跡指定に関しては、地元選出の市議会議員のご理解を得て、昨年度は 2 度にわたって横浜市教育委員会生涯学習文化財課との面談の機会を持ちました。実現の方向には進んでいませんが、今年度も繰り返し慶應義塾や横浜市に対する働きかけを行っていきます。

活動方針

〇文化財指定早期実現を文化庁・神奈川県・横浜市に働きかけ、地下壕を保存する。
〇慶應義塾・横浜市・神奈川県・国への働きかけを、港北区民をはじめとする地域住民と協力して行う。
〇小・中・高校生及び広く一般市民などに対して平易でわかりやすい見学会を実施する。
〇戦争遺跡保存全国ネットワークの会員団体として、全国的な保存活動に参加する。
〇日吉台地下壕見学会の内容をより充実させるために、ガイド養成講座・講演会・学習会を開催し、運営する。
〇横浜・川崎平和のための戦争展を開催する。
〇神奈川県内の他団体と連携し、日吉台地下壕についての展示や講演を行う。
〇日吉台地下壕の調査・研究を深める。
〇運営委員会の活動をより一層充実させる。

講演会

総会に先立って、吉田裕氏（一橋大学名誉教授、東京大空襲・戦災資料センター館長、日本近現代政治・軍事史専攻）より、約 2 時間、「戦争体験の継承 - 現状と課題を考える」のテーマで講演していただき、総会終了後には「茶話会」にて会員の方々を交え興味深いお話をしていただき、質疑応答も活発に行われました。

お知らせ

第27回戦争遺跡保存全国大会シンポジウム 北九州やはた大会

◇日程　2024 年 8 月 17 日(土) ～19 日(月)

◇会場　九州国際大学[福岡県北九州市八幡東区平野 1-6-1]

◇日程詳細

17 日　全体会・講演会　[KIU ホール]　受付　12:00～　全体会　13:00～

記念講演：九州近現代考古学談話会長　武末純一「近現代考古学と住民参加」
基調報告：戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員
地域報告：九州国際大学地域づくりコース「三輪ゼミ」
全国交流会：17:30～　[KIU ホール前　学生食堂]

18 日　分科会・閉会　[2 号館各教室]

受付　8:30～

分科会 9:00～15:00

第 1 分科会　　保存運動の現状と課題
第 2 分科会　　調査の方法と整備技術
第 3 分科会　　平和博物館と次世代への継承
閉会集会　15:00～

19 日　現地見学会

☆半日コース　8:30～12:30

軍艦防波堤・小倉陸軍造兵廠・北九州市平和のまちミュージアム

☆1 日コース　8:30～15:00

大連航路上屋・火ノ山砲台・駐屯地史料館・北九州市平和のまちミュージアム

◇大会開催趣旨

昨年の横須賀おっぱま大会に続く第27回戦争遺跡保存全国シンポジウムを福岡県北九州市八幡東区で開催します。1963(昭和38)年、門司・小倉・若松・八幡・戸畑の旧五市が対等合併を行い、北九州市が誕生し八幡区となりました。その後、人口増に八幡区は、現在は八幡東区と八幡西区になっています。

1897(明治30)年2月、官営製鐵所の建設地が八幡に決定されると、町も大きく変貌し、1917(大正6)年に八幡市が誕生し、製鐵所も工場拡張を繰り返し、1922(大正11)年に完成した二代目本事務所の1階には陸軍、2階には海軍の事務所が設けられました。太平洋戦争開戦後の1942(昭和17)年4月には、八幡製鐵所は「重要事業場労務管理令」による「重要事業場」に指定され、鉄鋼生産は、国内生産量の約半分を産出していました。

アメリカは、最初の戦略爆撃機B-29による空襲目標を八幡製鐵所とし、1944(昭和19)年6月15日中国成都から出撃させました。そして、翌年8月8日には、B-29による市街地を目標とした焼夷弾爆撃により、死傷者は約2,500人、罹災戸数約１万4000戸と

壊滅的な被害を受け、見渡す限り焦土と化しました。

戦後は、「燃えない都市」造りを進めると共に、「心の復興」に重きを置いた施策都市計画の中に位置づけました。そして、日本初の「都市型公民館」建設等市民の心に寄り添い、復興を象徴するシンボル「平和の女神像」を中心とした八幡駅前の景観を整備しました。

北九州市は、2022(令和 4)年 4 月戦争の悲惨さを伝えるとともに、平和の大切さや命の尊さを考える拠点として「北九州市平和のまちミュージアム」を開設しました。同館では、1945(昭和 20)年の八幡大空襲、翌日の原爆を搭載した爆撃機が小倉上空を飛来した後、長崎に向かった出来事を追体験できる 360 度シアターを設置しています。

また市内には、関門海峡防備の為、明治期に設置された矢筈山堡塁など下関要塞の施設が、良好な状態で残されています。加えて、太平洋戦争中は、製鐵所等の軍需工場を守るため、重要な防空要地に指定され、多くの高射砲部隊が配置され、若松区の石峰山高射砲陣地など島や山中に設置された施設が数多く残存しています。

戦争遺跡保存全国シンポジウム開催を機に、これらの戦争遺跡の保存と活用の機運が高まることを願っています。

◇主　催

戦争遺跡保存全国ネットワーク、第 27 回戦争遺跡保存全国シンポジウム北九州やはた大会実行委員会、九州国際大学地域づくりコース[三輪ゼミ]　九州近現代考古談話会、聞き書きボランテイア「平野塾」、特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会、オブザーバー/重信幸彦(北九州市平和のまちミュージアム館長)

☆実行委員長：九州国際大学地域づくりコース[三輪ゼミ]　三輪　仁
☆副実行委員長：九州近現代考古学談話会会長　武末　純一(福岡大学名誉教授)
☆事務局長：特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会理事長　宇野　愼敏
☆事務局長補佐：関川　妥
☆会計：特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会前理事長　前薗　廣幸
☆監査：聞き書きボランテイア「平野塾」副代表　出口敬子

◇後援

北九州市、北九州市教育委員会、福岡県、福岡県教育委員会、九州国際大学、朝日新聞社、毎日新聞社、西日本新聞社、読売新聞西部本社、RKB 毎日放送、KBC、テレビ西日本、株式会社ジェイコム九州

◇協賛　(公財)北九州観光コンベンション協会

◇問合せ　実行委員会事務局　電話・FAX　093-661-8688
メール　eirakuan2@jcom.home.ne.jp
住所　北九州市八幡東区西台良町 10-33　前薗方

感想文

日吉台中学校生徒の出張授業感想文（2023 年 5 月 15 日）

講演のテーマ：日吉台地下壕・特攻兵の話・日吉地区の古代遺跡

前号に引き続き、昨年 5/15（月）、日吉台中学校体育館での出張授業に参加された 2 年生 360 名より頂いた感想文の一部をご紹介いたします。

◇平和講演を聞いて、自分は本をたくさんよんだりするので知っていたことが多かったけれど自ばく特攻の現実や日吉の地下のことなど知らないことがまだまだあったので講演を開いていただきありがとうございました。質問：地下では空気は外からとることができたと聞きましたが、トイレなどはどうしていたんですか？

◇人の「命」について、深く考えることができました。戦争は、もう二度とおこさないようにと心から思いました。また、戦争で家族、友達をうしなってしまった人たちがどれだけ辛い思いをしたかなども考えることができました。これからは命の大切というものを忘れずに生活していきたいと思います。

◇話をきいて、戦争の怖さを改めて知って貴重な話をきけてよかったと思いました。学校で勉強したいのに武器を作らされたり、軍隊として戦争に行く人もいて、今の生活がどれだけ良いのかをとても実感することができました。

◇この街に、あんなに戦争のかんけいするものや、歴史にのこるものがあったなんて、とてもおどろきました。今度、少し、気にかけて歩いてみようと思います。特攻兵器の話で、あんなことをするなど追い込まれていたんだなと思ったが、あの方法で戦うくらいなら、こうふくすればよかったのにと思いました。

◇今回自分が平和講演会を受けて一番に思った事は、人は人をきずつけることにより、自分を優位に立たせることしかできなかったという事です。戦争という争いは、人間が進化をするためには必要ない事だなと改めて思い、戦争は二度と起きてはいけないなあと思わされました。このような歴史を子ども達につたえる活動を行っている日吉台地下壕保存の会のみなさまは本当にすごいなと思います。多忙の中、自分達に大切な事を思わせてくれて、ありがとうございました。

◇戦争というものは、人の命が軽んじられるような、本当に生きるのがつらくなるような出来事だったのかと改めて認識しました。もう昔のことでは済まされないほど悲しい出来事であり、もう二度とおこるべきではないなと思いました。最近ではウクライナとロシアの戦争が始まったことで、罪のない死傷者が多数出ていると聞きます。被害にあったからこそ、よりいっそう被害者によりそいたいと思いました。

◇私は今まで、日吉に地下壕があることは知っていたけど、どのような構造になっているかなどは全く知らなかったので、とても長いと知って驚きました。戦争は今まで人ごとのように考えてきたけど、今はウクライナのことがあるので、これからはもっと平和のことについて考えていきたいなと思いました。自分はこれからの世界中の平和について考えた時、まだ実際に何か行うというのは難しいので、学校でやっているペットボトル・キャップの回収をもっと積極的にやって、少しでも平和にこうけんできたらなと思いました。

◇私は演劇部なのですが、今ちょうど”戦争”か”平和”をテーマにした朗読劇というものをやっていて、今回の平和講演会でとても勉強できました。劇のためか日常の学習などを通し、ある程度戦争のことを知っていると思っていたけど、先生方のお話で、私の知らない戦争の一面を知ることが出来、新しい発見がたくさんありました。先生方のように、今回の劇を成功させ、平和の尊さや戦争の恐ろしさをより多くたくさんの人たちに伝えていきたいです。改めまして、今回の講演会とても勉強になりました。ありがとうございました。
◇戦争の小説が家に何冊かあって読んでいるから、零戦や特攻隊、桜花とかは知っていた。人間魚雷もどういうものかは知っていたけど、ふたがしまったらそこから出られないのは知らなかった。１トン以上もあるのを、まん中のそうじゅう席から、あやつれなんて。普通に考えて無理な話だし、人間のことを軽く考えすぎだと思った。これを考えた上のおじさん達は、自分が死ななければ何をしてもいいと考えていそうで最悪だと思った。なんで人は戦争をしようと考えるのか意味が分からなかった。

◇前々から日吉に防空ごう（地下ごう）があるのは知っていましたが、それがどこにあって、どんな歴史をつみ重ねてきたのかは、知らなかったので、今回の講演会で身近な日吉の戦争について考えられました。けいおうキャンパスに海軍の部署がおかれ、さらに空襲を防ぐための地下ごうをつくったという事は、当時の日本海軍の戦艦がもう残り少なかった事や、日本が負けていた事を表しているというお話を聞き、改めて防空ごう（地下ごう）というものは、日本が戦争に敗れ、たくさんの死者、けが人を出したことを、二度と我々に忘れさせないために保存していくのが大切なのだと思いました。いつか地下ごうを自分の目で確かめてみたいです。

◇戦争に勝つために市民をぎせいにしたり、誰か一人をぎせいにして武器を作ってたたかって、ぎせいになってくれた人にも大切な人はいただろうし、大切にしている人がいるのに自分をぎせいにして国のためにたたかってくれた人のことを絶対に忘れちゃだめだなって改めて思いました。もう二度と多くの人をぎせいにしてまで争いたくないし、争う必要なんてないと思うから、改めて自分を見つめ直して、よりよい世界にしていきたいと思いました。

◇先日は台中に来て下さり、ありがとうございました。私は特攻隊の方が出ている本を読んだことがあり、それと重ね合わせながらお話を聞いていました。特攻隊の方は家族と別れをおしむ前に出撃しに行ってしまうと書かれていたのですが、そうなのでしょうか。だとしたらとても悲しいなと隊員さんの身になっても、家族の身になっても感じることと思います。自分で一緒に死にに、行かないと勝てない、また勝てるか分からない相手を命かけて倒しに行くのは本当にムダな犠牲者を出すことだと改めて強く感じました。これからもこの戦争の話を家族や友だちに伝えていきたいです。本日はきちょうなお時間、ありがとうございました。

聞き取り

元日吉寄宿舎寮生・芹沢 宏（たかし） 氏（故人）の聞き取り
（2013 年 3 月 9 日　公開講座・都倉武之さん講演会でのお話）

文責：山田　譲

日吉駅の向こうに野球部、ラグビー部の体育会合宿所があった。そのころ（1945 年夏）私は蒲田に住んでいたが、家族が静岡に行っちゃう。私は静岡に行くのがいやだったので、「こちらでどこか入れる所はないか」と聞いたら「体育会の寮がガラガラだから宮崎先生に聞いてみろ」と言われて行ったら「空いているから君、そこに入ったら」と言われて、その後新入生も、ここに入る。竹田行之さんも一緒に入った。

その後、終戦になって「海軍が出ていくから留守番していてくれないか」と言われた。夏休みなので、学生はほとんどいないが幾人か残っていたので泊まりに行った。

最初の日は海軍が出ていく時だった。将校がいるのかと思ったらひとりもいなくて、兵曹長みたいな人がいて、兵隊がいただけで、それも 20 人位で整列して日吉の駅に歩いて帰っていった。兵曹長みたいな人に（寮）の中を見せてもらって案内してもらった。しょっちゅう泊まっていたのは 3～4 人で、中寮の空いていた部屋・個室にバラバラに入った。昼は体育会（の寮）にいた。夜だけ（寄宿舎に）いた。夏で毛布を持って行った。

夜は暇なので下（地下壕）がどうなっているのだろうと見に行った。工学部の先輩の河内徹也さんと一緒に 2 回ぐらい、司令部が出て行ったあと入った。入口がどうなっていたかわかりませんが、まっすぐ 3 階分ぐらい降りていくと司令部の部屋が残っていた。あんまり歩いていくと迷ってしまうので、あんまり行かなかったが暗くて何もわからなったが、河内さんが「配電盤があるはずだ」というので、探したらあったので、スイッチを入れたら部屋がパッと明るくなった。

司令長官が待機している部屋は小さな和室みたいな部屋がありタタミが敷いてあり床の間のようなものができていて、そこに掛軸が下がった跡のようなものがあった。

それから電タン室(ママ)があって、これは大きな部屋で幅はあまりないが、長さはこの部屋（来往舎シンポジウムスペース）位あって片側にずっと一人ずつ座れるようになっていて、そこで無線を聞くようになっていた。ちょうど目の高さに、掛けるとスタンドになる東芝製かなんかの折り曲げて掛けられるスタンドがあり、その下で通信をしているようなものだった。

それから廊下のところに自転車の両輪がはずしてある、コの字のようになっている兵隊さんが乗っかって発電する設備だと聞いたことがある。当時はあまり興味がないので、ここにいたのかという程度で見ていた。中はとてもきれいだった。あとで、ここで作戦をしていたのだということを勉強して知りました。

あと星野さんという寮のおばさんがいて、テニスコートのそばに住んでいた方、そばにお寺があった気がする。寮の掃除をしていた方ですが、その方の家のそばに入口の穴があって、そこに味噌樽みたいなものが入口にずっと何メートルかにわたって上下にわたって置いてあった。海軍が使っていた味噌汁の味噌だろうと思う。それが 1～2 週間して行ったら味噌樽がきれいになくなっていた。おそらくトラックか何かで運べるような連中が持って行ったのだろうと思う。当時、我々もめずらしいものがあっても、それを運ぶ手立てがないので、ただ見て帰ってくるだけで、持っていこうとしても運ぶ手段がない。それを運んで行ったのは相当事情に通じている連中、海軍に通じている連中だという程度に思っていた。

蛍光灯は使っていたが、こんな真っ白いものでなく青白いものだった。東芝製だった気がする。私も５本ぐらい持っていって竹田さんにも分けたかどうかわからないが、体育会の部屋でも使ったがすぐダメになってしまうので、そこらへんにぶんなげてあった。掛けてあるスタンドはちょっと折り曲げて真下だけ照らすもの。

海軍の兵曹長みたいな人に見せてもらったのは、南寮の豊田さんの、司令長官の部屋なんかは３つぐらいぶち抜いて大きくしてありますし、隣か、その隣位に６帖をもうひとつくり抜いて風呂ができていた。２メートルぐらいの立派なヒノキの風呂でした。「どうやって風呂を沸かしていたのか」と聞くと兵隊が並んで外階段でつながって下のボイラー室から３階だったかな、２階だったかな。ヒノキのにおいがプンプンするような立派な風呂で当時私も１週間に一度風呂に行けるかどうかという時に司令長官になるとこんな風呂に入るのかという思いで見ていた。

海軍の兵隊はわりといいものを食べていた。陸軍の乾パンは小さい四角いものだったが海軍のはうまかった。牛乳とか使ってあったからではないか。乾パンと牛乳一杯をもらったので、腹をいっぱいにした思い出がある。あと南寮のはずれに七面鳥がいた。「おエライさんはクリスマスの時に食うらしいよ」と言われて、食うもののない時にぜいたくなことをしているなと思った。今から思うともっと見ておけばよかったと思う。

奥津さんは戦争が終わってすぐもどってきた。自分は学生服を着ていたが、奥津さんは海軍の服を着ていて帽子も海軍マークはとってあったが戦闘帽のようなものをかぶっていた。日吉の町を歩いていると向こうから米兵が来てボクシングのような恰好をして歩いているので、奥津さんは「こわいこわい」と言って脇の路地に逃げてしまった。しばらくして「行っちゃったよ」と言うと出てきた。米兵も黒人兵もいて夜の町はこわかった。夜は女性は出歩かなかった。しばらくすると別の女性が出てくるようになったが。アメリカ兵も相当よっぱらったりしていた。

９月の２週間目ぐらいの朝「夕方までに出ていけ」という指令が米軍から来た。「荷物は体育会に持って行け」という。そういわれても幾人かの荷物はこっちに運んであげていたので、仕方ないので獣医さんのうちがあって牛車を借りて３時ごろにようやく来た。米軍は海軍のものを、水色をしたソファとか重役椅子みたいなものをみんな下に出してマムシ谷に蹴落としてゴロゴロころがっていくのを見ていた。そのあと牛車に荷物をのせて体育会にもどった。そのあとはまったく入れなかった。金網みたいなものをグルグルまいたものを張りめぐらして衛兵もいるのでキャンパスにはまったく近寄れなかった。

＜芹沢さんの話で分かったこと＞

（１）　地下の司令長官室は
　　畳の部屋
（２）　南寮の長官室の隣に
　　ヒノキ風呂
（３）　受信機は部屋の片側に配置
　　されていたように聞こえるが、
　　どうなのか。
（４）　目の高さにスタンド型のよ
　　うな蛍光灯
（５）　自転車型発電機があった
（６）　米軍進駐下の日吉の町の様子

報告　スティーブンＦウドバーヘイジーセンター探訪　2024.4.22

ガイド　矢尾板達也

ワシントンD.C.の中心部には、スミソニアン国立航空宇宙博物館（本館）は、世界で最も人気のある博物館の一つで、現在、すべての新しいギャラリーと公共スペースを導入する大規模な複数年にわたる改修が行われています。　5-6年前に行った時は零式艦上戦闘機の展示がありましたが、現在は改修作業で半分程しか展示スペースがなく、今回は見ることができませんでした。

今回訪問した**スティーブンＦウドバーヘイジーセンター**（スミソニアン航空博物館［別館］）　Steven F. Udver-Hazy氏はこの別館の建設にあたり多額の寄付をした航空機リース会社の社長です。　バージニア州フェアファックス郡のダレス空港の滑走路のすぐ南に位置しています。　ワシントンD.C.の市内からは地下鉄で凡そ50分程でワシントンダレス空港駅から8km程ありUberで移動しました。

World War II Aviation（第二次世界大戦航空）のエリアに、広島に原爆を投下した**B29（エノラゲイ）**が大きく置かれている翼や機体の下に、日本の航空機が展示されており、如何にもアメリカが接収した機体を見てみろという感じでした。　戦後、日本の**「橘花」、「桜花」、「震電」、「紫電改」、「晴嵐」、「ネ20」**といった当時の日本の最先端の航空技術がアメリカに接収・調査研究され、日本には現存していない機体が多く展示されています。

各航空機のより詳細な内容が下記にありますので、参照してください。

http://ki43.on.coocan.jp/oversea/nasmS/nasmS.html

展示されている主な機体としては、

●中島　夜間戦闘機「月光」二三型［J1N3］

●九州飛行機/空技廠　局地戦闘機「震電」［J7W1］

●川崎　二式複座戦闘機「屠龍」［キ-45改丙］

●愛知　特殊水上攻撃機「晴嵐」［M6A1］

●中島　特殊攻撃機「橘花」「ネ20」ターボジェットエンジン

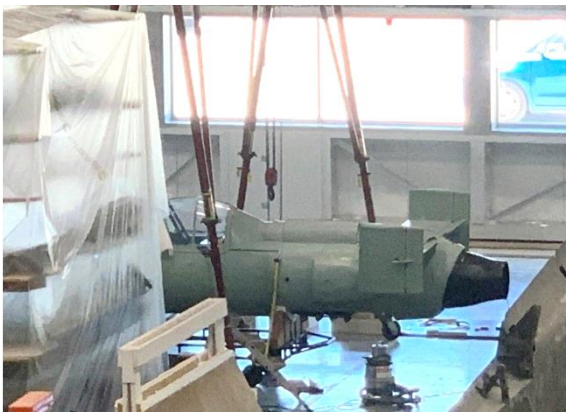
●川西　局地戦闘機「紫電二一型」甲型（「紫電改」甲型）［NIK2-Ja］

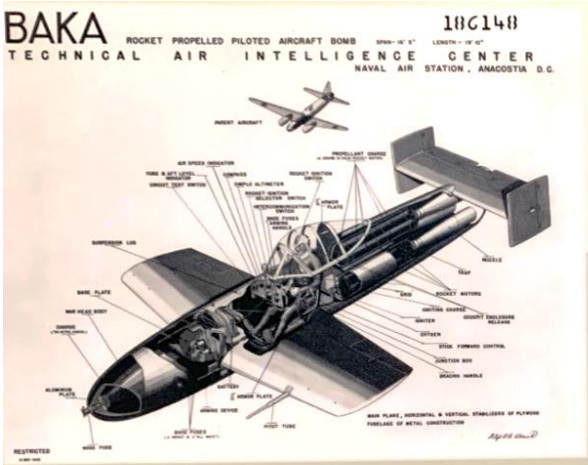
●空技廠　特別攻撃機「桜花」二二型

World War II Aviation（第二次世界大戦航空)のエリアを３周ほどしましたが、「桜花」はなく、下記の看板をみつけました。「桜花」のニックネーム「BAKA」と書かれています。

その後、航空機展示格納庫の一角にあるスペースに「MARY BAKER ENGEN RESTORATION HANGER」にリストア中の**「桜花」**を見つけることができ、今回の目的を達しました。　遠くからでしたが🌸のマークがありましたので、間違いはないと思います。

地下壕の通信室で、特攻作戦の航空機からの模擬通信音が流されますが、その音が途絶えた後の結果は、寄宿舎にいる海軍上層部も地下壕の中の人たちも誰も知りません。　看板に書かれていた戦果が、日本国民を総動員して大変大きな犠牲を伴ったものに見合うべきものだったかどうか、結果として「エノラゲイ」を阻止できるような戦局には至らなかったこと伝えていく必要があると思いました。





The Kamikaze

Japan employed kamikaze, or suicide units, in last days of the war in a desperate attempt to stem the tide of the U.S. advance. Some 5,000 pilots perished in kamikaze attacks. Kamikaze tactics brought considerable damage to U.S. warships off Okinawa in April 1945, sinking 21 and damaging 217 more. The jet-propelled Baka, shown here, was designed for kamikaze missions.

カミカゼ
日本は戦争末期、米国の進撃の流れを阻止しようと必死の試みとして神風（特攻隊）を投入しました。 神風特攻攻撃で約5,000人のパイロットが死亡しました。 神風戦術は 1945 年 4 月に沖縄沖の米軍艦に大きな損害をもたらし、21 隻が沈没し、さらに 217 隻が被害を受けました。ここに示されているジェット推進の「桜花（BAKAバカ）」は、神風特攻作戦用に設計されました。

報告

2024 平和のための戦争展 in よこはまの所感

ガイド　鈴木 隆司

かながわ県民センターで開催された“第 29 回 平和のための戦争展 in よこはま”に 5 月 26 日（日）と 6 月 1 日（土）に行ってきました。26 日は朗読劇と講演会があり、日吉台中学校演劇部による「安全地帯にいる人の言うことは聞くな～軍人が遺した言葉と現在～」と題して特攻隊の生みの親と言われる大西瀧治郎中将の副官を務めた元海軍主計少佐門司親徳氏の言葉を朗読されました。中学生の朗読は先人達の肉声が言霊として蘇ったようで心に響きました。その後に中区在住の金子光一氏より 5 歳の時に体験した横浜大空襲の体験談を伺いました。空襲が始まった時は自宅でなくて外にいて一人ぼっちで避難する大人について戦火の中を逃げたこと、親御さんと再会するまで心細かったこと、空襲後バラックの家で苦しい生活をしたことなどお話しいただきました。講演の最後に「私の体験したことは横浜大空襲のごく一部であり、もっと大変な体験をされた方が多くいたので人前で話すことを躊躇していた時もありましたが、体験者が少なくなる中で戦争が再び起きないことを願って話しました。」という言葉が心に刻まれました。誰しも戦争で起きたことを思い返して後世に伝えていくことは容易でなく、寧ろ悲惨な体験は心の奥に蓋をされた方が多いと思います。戦後生まれの私たちがその願いや想いを受け止めて、次の世代に伝えていくのかを考えさせられる講演会でした。

6 月 1 日（土）は、日吉台地下壕を紹介する展示スペースで来場者に説明するスタッフをさせていただきました。戦争展に来場される方は、展示パネルや展示品を一つ一つ時間をかけて見ている方が多かったです。日吉台地下壕の存在は知らない方もいて、見学会のパンフレットを渡すとともに一度現地を見に来てほしい旨をお伝えしました。一人でも多くの方に関心を持ってもらい見学会に参加していただけたら嬉しい限りです。

「2024 平和のための戦争展 in よこはま」に参加して

ガイド　酒井 昭規

「短時間でもいいよ」という喜田さんのお誘いに応えて、これまで参加する機会がなかった標記イベントに６月１日（土）展示説明要員として参加してみました。

正直いって、この手のイベントに開場（午前 10 時）から午前中の２時間ではほとんど来場者もなく、専ら他団体の企画展示を見て過ごすのではないかと予想していましたが、土曜日ということもあってか？それなりに来場者もあり説明要員３名（ほかに山田さんと鈴木さん）で分担してじっくり説明することができました。

現場でもらった実行委員会発行の「会場案内パンフレット」が想定外に充実しており、特に「横浜大空襲」「船と戦争」及び「神奈川の米軍基地＆自衛隊基地」の記事は参考になりました。また、その表紙にあった日吉台中学校演劇部の朗読劇の題名「安全地帯にいる人の言うことは聞くな」が非常に気になって調べたところ、これは海軍航空特攻の初出撃命令を下したとして有名な第一航空艦隊司令長官・大西瀧治郎中将の副官だった門司親徳主計少佐（短現６期・故中曽根元首相と同期）の言葉だということを突き止めました。「短期現役士官」や「予備学生」に強い関心をもって彼らの残した文書を集めている門司氏の残した手記も読んでみることにしました。

お知らせ　主催：日吉台地下壕保存の会、横浜市港北図書館

◎パネル展示会（日吉台地下壕保存の会）

日吉台地下壕、戦前の日吉の様子、太平洋戦争関連の展示を行います

場所：横浜市港北図書館１階　“港北まちの情報コーナー”

展示期間：７月１７日（水）～８月１７日（土）正午まで

開館時間：９時３０分～１７時

※ミニレクチャー：展示会に来られた方々に保存の会の説明員がご説明します

日時：７月２０日（土）、８月３日（土）共に１４時～１６時

◎講演会（日吉キャンパスにある戦争遺跡）

日時：８月１０日（土）１０時～１２時　　場所：横浜市港北図書館２階　会議室Ａ

定員：当日先着４０名（申し込み不要）

お知らせ　主催：日吉台地下壕保存の会、横浜市港北図書館

◎パネル展示会（日吉台地下壕保存の会）

日吉台地下壕、戦前の日吉の様子、太平洋戦争関連の展示を行います

場所：日吉の本だな（日吉図書取次所）

慶應義塾大学「協生館」１階　日吉駅（東急東横線・目黒線、市営地下鉄グリーンライン）徒歩１分

展示期間：８月１８日（日）～９月３日（火）正午まで

開所時間：月曜～金曜　１０時～２０時　　土・日曜、祝休日　１０時～１８時

活動の記録　2024 年 4 月～7 月

４/１３（土）ガイド養成講座①　応募者 18 名（来往舎中会議室）
４/１７（水）平和のための戦争展 in よこはま実行委員会（かながわ県民ｾﾝﾀｰ）
４/１９（金）会報 157 号発送（来往舎小会議室）
４/２４（水）地下壕見学会　慶應義塾高校卒研 3 年生　15 名
４/２７（土）定例見学会　36 名
５/２（木）　運営委員会（来往舎小会議室）
５/７（火）　平和のための戦争展 in よこはま実行委員会（かながわ県民ｾﾝﾀｰ）
５/８（水）　定例見学会　48 名
５/１１（土）港北区読書講演会「日吉の歴史～キャンパスとともに歩んだまち～」
（港北図書館・港北区役所地域振興課　主催）　講師　阿久澤武史氏
（来往舎　大会議室）50 名（抽選）
講演後、キャンパス内見学（地下壕ガイドが案内・地上のみ）
５/１７（金）平和のための戦争展 in よこはま実行委員会（かながわ県民ｾﾝﾀｰ）
５/１８（土）ガイド養成講座②（ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ　地下壕所在地の地上部分を歩く）
５/２５（土）定例見学会　39 名
５/２６（日）第 29 回平和のための戦争展 in よこはま（かながわ県民ｾﾝﾀｰ）
特別企画「日本とガザ・パレスチナ～平和と共存に向けて～」三浦徹さん
「5 歳の体験した横浜大空襲」金子光一さん　朗読劇「安全地帯にいる人の言うことは聞くな」横浜市立日吉台中学校演劇部
５/３１㈮～６/２㈰　展示　横浜大空襲ほか約 500 点（日吉台地下壕の展示も）
６/１（土）体験者の聞き取り報告・ビキニ被爆から 70 年
６/６（木）　運営委員会（来往舎小会議室）
６/８（土）　ガイド養成講座③（来往舎中会議室）
６/１０（月）地下壕見学会　慶應義塾大学福澤研究センター設置講座「近代日本と慶應義塾－戦時下の慶應義塾と学徒出陣を考える」155 名（次回 7/15㈪）
６/１１（火）平和のための戦争展 in よこはま実行委員会（かながわ県民ｾﾝﾀｰ）
６/１２（水）定例見学会　27 名　ガイド養成講座参加者　10 名
６/１３（木）地下壕見学会　慶應義塾高校 3 年生 0 組　44 名
６/１５（土）2024 年度総会（来往舎シンポジウムスペース）
講演「戦争体験の継承－現状と課題を考える」講師　吉田裕氏
６/２２（土）定例見学会　51 名　ガイド養成講座参加者　7 名
６/２８（金）地下壕見学会　慶應義塾大学経済学部留学生クラス（高橋先生）15 名
７/１（月）　冊子「戦争遺跡を歩く　日吉」増刷　2000 部
７/４（木）　運営委員会（慶應義塾高校　多目的室）

〇地下壕見学会：定例見学会は毎月 2 回　第 2 水曜日・第 4 土曜日午後が基本です
〇学校関係（学術・教育）の見学は定例以外にもご相談で実施しています
〇お問合せ・申込みは見学会窓口まで

連絡先（見学会）電話 080-5612-6344（佐藤）　メール hiyoshidaichikagou@gmail.com
（会計）亀岡敦子：〒223-0064 横浜市港北区下田町 5-20-15　電話 045-561-2758
（その他）喜田美登里：横浜市港北区下田町 2-1-33　電話 045-562-0443
ホームページ・アドレス：http://hiyoshidai-chikagou.net/

日吉台地下壕保存の会会報　（年会費）一口二千円以上
発行　日吉台地下壕保存の会　郵便振込口座番号 00250-2-74921
会長　阿久澤　武史　（加入者名）日吉台地下壕保存の会
日吉台地下壕保存の会運営委員会